

シュヴァリエ作のメダリオンに基づく木版画

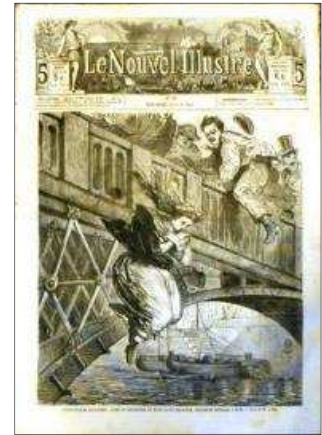
(『新画報』パリ、1866年6月13日号)

(水谷彰良コレクションより)

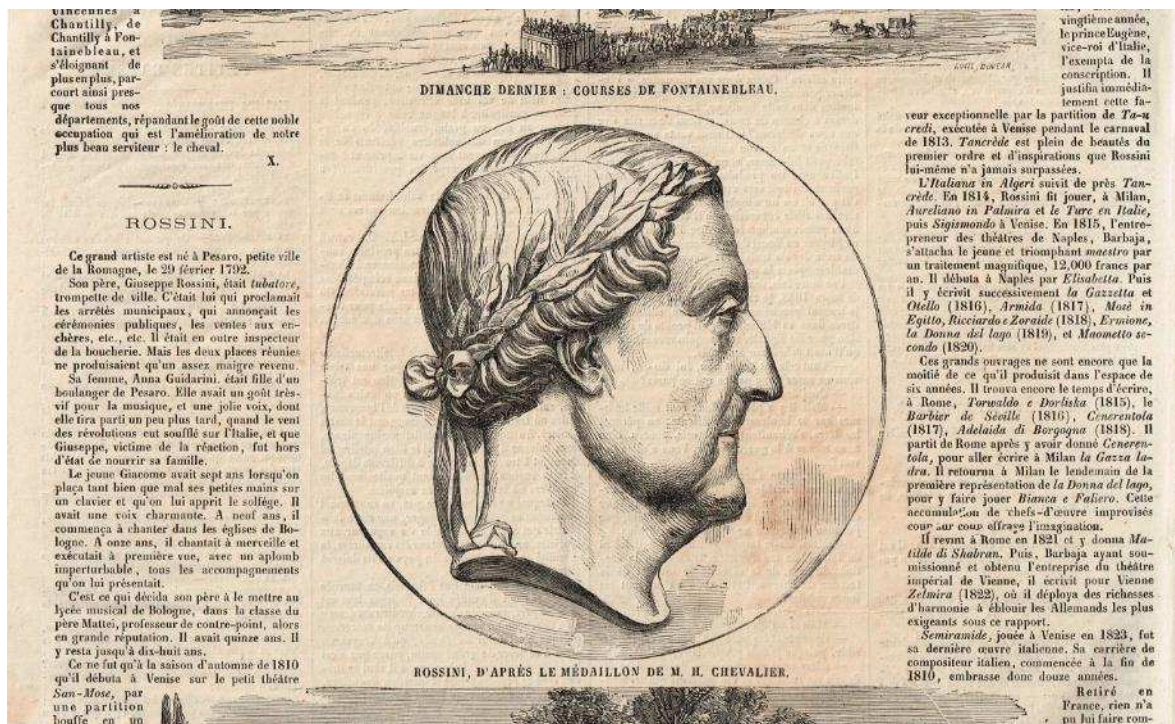
シュヴァリエ作のメダリオンに基づく木版画 (『新画報』1866年6月13日号)

『新画報 (Le Nouvel Illustré)』は1866年4月24日にパリで創刊された日刊新聞で、翌1867年4月30日までほぼ1年間継続した(発行所の住所は boulevard Montmartre 21)。1号当たり4頁で、第一面は題字とトップニュースを表す木版画からなり、第二～三面にさまざまな記事を載せ、第四面に図版入りの話題を提供している。

1866年4月24日(第44号)のトップニュースは、5日前の6月8日に生活苦からルイ=フィリップ橋から身投げした若い女性が救出された事件で、第四面にロッシェニの略伝が2点の木版画(シュヴァリエ作のメダリオンに基づく肖像と、パシーのロッシェニの別荘)と共に掲載されている。筆者所蔵のサイズは42.3×30.2 cm。シュヴァリエ作のメダリオンに基づく肖像は、ルモワヌによるリトグラフを下絵に、左右反転して右向きになっている。下部の記載は、「ROSSINI, D'APRÈS LE MÉDAILLON DE M. H. CHEVALIER.」。



『新画報』1866年6月13日号の第一面



シュヴァリエ作のメダリオンに基づく木版画 (『新画報』1866年4月24日号。筆者所蔵)